

山口芸術短期大学

I 内部質保証を確保するための全学的なマネジメントの強化

1. ガバナンスの強化（職務専念義務を順守した全職員の取組みの強化）

(1) 学長のリーダーシップが発揮できる補佐体制の確保

学長がリーダーシップを発揮し教学運営体制を強固なものにするために、学生部長が学長補佐を兼任、教務課長が学生部長補佐を兼任し、体制を強化した。また、新たにミドルアップ、ボトムアップが可能な機能として「企画・IR委員会」を活用した。

(2) 第Ⅰ期中期計画の検証及び第Ⅱ期中期計画の策定

第Ⅱ期中期計画策定にあたっては、平成28年度から令和2年度までの第Ⅰ期中期計画である経営改善計画を検証しながら、以下の体制とスケジュールにより学園全教職員が関与することを念頭に計画を進めた。

- ① 学園事務担当者会議（6～7月）実施回数：2回
- ② 学内定期会議（運営委員会、教授会等）（6月～3月）実施回数：延べ20回
- ③ 学長と学部長・学科長定例会議（5月～11月）：8回
- ④ 企画・IR委員会（5月～3月）：11回
- ⑤ 若手教員との懇談会（9月～10月）実施回数：2回

上記の会議には、今後の社会変化や多様化する状況を鑑み、今後10年間に想定される国の施策や中教審答申及び初等・中等教育に関する最新の資料などを提供し、8月以降は大学において考えられる中長期の計画案を提示・審議しながら、学内での共有化を図った。

中期計画の骨子である「宇部学園ビジョン2030」を策定し、これに基づいたビジョンや教育理念を明確にし、令和3年度から実行することとした。

(3) 適切な運営体制維持のための専任教職員の採用（1名）

バランスのとれた教職員体制を構築するために、退職に伴う管理職の補充として、専任の課長職1名を採用した。

2. 教育研究活動の充実・支援

(1) 学長裁量経費を基にした学内研究助成制度による研究活動の推進

① 従来の「研究費助成制度」を見直し、学長のリーダーシップを生かしながら、全学的な視点から教育研究の活性化と大学運営の改善を目的として行う「プロジェクト研究」及び「プロジェクト事業」を新たに制度化した。

また、従来の個人研究助成については、規模を縮小しながらも、本学における研究活動を促進し、得られた研究成果をより一層質の高い教育として提供することを目的とした。

② 令和2年度に特化した助成制度として、「新型コロナウイルス対策特別枠」を設け、テレワーク支援及び遠隔授業支援を行った。

(2) 教育研究を充実・高度化させるための外部資金の獲得に向けた取組みの実施

科学研究費補助金申請においては、従来に引き続き、申請書類の事前ブラッシュアップを行ったうえで申請（1件）し、その結果、不採択であった。

また、教職員の研究倫理教育を推進するために研究倫理のeラーニングコースの受講を促進し、令和2年度末現在は、91.2%の受講が修了している。

3. 教職員の知識・能力、意識や資質の向上及びマネジメント力の強化

(1) FD・SD委員会の下で教育能力・技能の向上と授業改善等に向けた内部質保証のための研修会の実施

「FD・SD委員会」の下で年間の研修を企画し、FD研修会を2回、教職員全員の受講を義務づけたSD研修会を1回実施した（受講率100%）。

研修会に参加できない教職員には、研修資料を閲覧後、レポート提出を可能とするなどの工夫をし、全員参加型の仕組みを整備した。

また、新任者研修や学生FDのほか、山口県と県内の高等教育機関等で構成する「大学リーグやまぐち」が企画するSD研修会にも事務職員2名が参加し、業務に関する知識・能力・資質の向上に努めた。

4. 内部質保証を確保するための自己点検・評価の実施

(1) 自己点検・評価活動及び外部評価の継続実施と内部質保証に向けた活用

令和元年度に引き続き、外部委員5名（企業アドバイザー1名、山口市行政担当者2名、高校教諭2名）を招聘し、「教育活動に関する協議会」を10月に開催した。コロナ感染予防対策のため、遠方の委員にはメールにて意見を聴取した。

主なテーマを、「これからの時代を生きる教員としての資質や能力」として、教育行政や学校現場など地域や学校からのニーズを中心に、今後の大学教育の在り方などについて様々な意見を得た。これらの意見を踏まえて、自己点検・評価活動及び第二期中期計画に反映した。

なお、本協議会は、年間2回の開催を基本としていたが、コロナ感染防止対策として、回数を1回とし、会議時間の短縮と出席者の縮小も余儀なくされた。

(2) IR機能を強化し、学内データの一元的な収集・分析及び情報共有

大学運営に活用するため、令和2年度の学内データを一元的に収集した。今後、更に必要なデータ収集・分析・活用が必要となる。

5. リスク対応への取組み強化

(1) 大規模災害、緊急事態の発生時に対応した危機管理マニュアルの整備及び学内への周知

学長直轄の組織として設置した「新型コロナウイルス感染症防止対策本部」を、様々な事象や案件が発生した都度、機動的に招集し、授業や行事等への対応、新型コロナウイルス感染症対応フローや対応マニュアル等の策定など種々検討し適切な感染防止対策を講じた。

(2) 避難訓練等の継続実施による危機管理体制の強化

避難訓練等の継続実施や授業方法の工夫による危機管理体制を強化した。

- ① 学生役員及び教職員を対象に防災・避難訓練を実施した。学生消防団が企画し、消火訓練や AED の設置個所の確認等を行い、危機管理に対する意識啓発を図った。
- ② 新型コロナウイルス感染対応のための遠隔授業が対面授業に相当するものとなるための申し合わせ事項の制定や、公共交通機関を利用する学生・教職員の感染防止のための授業時間帯の変更、本学の行動基準の策定、様々な感染予防対策等の企画立案等を行い、実施した。

II 教学マネジメントの強化

1. 建学の精神、教育の理念、教育の目的、3つのポリシーと連動させた学修成果の獲得に向けた教育課程の充実・実践

- ① 再課程認定の事後調査対応(領域対応)届の提出及び指定保育士養成施設の学則変更申請に向けて、3つのポリシーを一体的に改正しながら令和3年度教育課程の充実に図った。令和3年3月に、両届とも文部科学省並びに山口県から承認を受けた。
- ② 遠隔授業については、文部科学省からの連絡事項の追加に適宜対応し、申合せ事項の改正を3度行い、講義概要の補足資料の提出を求めたり、授業アンケートに遠隔授業に関する項目を入れるなどして、対面授業に相当する遠隔授業になるよう工夫を講じた。また、同アンケートにおいて学修時間の実態調査も行い、個々の授業担当者に知らせるとともに、全体結果を教授会で報告し、教育活動の改善・見直しに活用した。

2. 学修成果の獲得に向けた入学前教育及び初年次教育の充実

総合型選抜や学校推薦型選抜の合格者に対して入学前課題を郵送し、提出を義務付けて計画的な学習を促したが、令和2年度は、学科の協力により、各高校に対しても、生徒の課題提出や指導への協力を仰ぐなど、高校と連携した取り組みを実施した。

3. アセスメント・ポリシーに則った共通の考えや尺度による評価の実施及び教育プログラムの改善

アセスメント・ポリシー細則の確実な実施と、ホームページ上への公開・更新、その数値の活用に向けて、更新状況活用のための一覧表を示し、「アセスメント・ポリシー細則別表」の項目内容も加えた一覧表に改善して、各担当部署で公開日の記入をすることとした。令和3年度、この一覧表のさらなる活用を促す。

【保育学科・幼児教育コース】

(1) 質の高い保育者を養成するためのカリキュラム編成

教務課との連携を密にし、幼稚園教諭養成課程と保育士養成課程を整え、課程認定事後調査対応届(領域対応)および保育士養成課程の変更届を提出し、新課程の準備を進めることができた。

(2)学修ベンチマークルーブリックに基づく学修成果の検証データの集積と具体的な指導の見直し

幼児教育コースの学生の傾向として、総じて自己評価が高く、自信をもって自己の成長を感じていることがうかがえる一方で、求められるレベルと自己の現状を客観的に捉える視点の弱さを感じさせる。

学修成果の各項目については、後期終了時の自己評価を集計し、この集計結果を踏まえ令和3年度の指導に生かす。

(3)保育現場との連携を密にしたカリキュラムの改善

実習懇談会等を実施することはできなかったが、実習訪問や新卒訪問を通じて保育現場からの意見を吸い上げ、カリキュラムや授業改善に生かすことができた。

(4)就職先における新卒者のルーブリック評価と在学生のルーブリックの現状比較による学修成果獲得に向けた授業改善

新卒就職先へ学修ベンチマークルーブリックを送付し、園長及び卒業生自身の学修成果の獲得状況の評価を確認した。その結果を蓄積し、在学生と比較しながら授業改善につなげる。

【保育学科・介護福祉コース】

(1)授業に対する学生の主体性や能動性を高めるためのアクティブ・ラーニングの工夫・改善

課題研究において教員がレポート等を単に確認するのではなく、アクティブ・ラーニングを授業に取り入れ、PDCAを意識して、各学生が自主的に学ぶ環境を設定した。

(2)利用者の尊厳を守る介護サービスの提供に向けた3領域（介護、人間と社会、こころとからだのしくみ）と付加科目との相互の連携を図り、介護の原則（自立支援）を重視した教育活動の継続的な展開

介護実習における自立支援の関わりは半減したが、その中で学生はいかにすれば自立支援の関わりができるかについて振り返りながら学んだ。実践からの学びは、方法次第であることも理解できたようである。

(3)介護福祉養成課程改訂に対応した教育課程の実践

介護現場でのマネジメント力が求められていることから、講義のみではあったがその重要性は理解できたようである。卒業後の実践にどうつないでいくかが今後の課題である。

(4)地域や介護の現場から真に求められる人材の育成に向けて、卒業時達成目標（国家資格の取得）を実現するための指導體制の構築と更なる授業内容の工夫・改善

国家試験対策において、3領域の教員がそれぞれのポイントを抑えながら問題を提供し対策することで、合格率100%を達成することができた。

【芸術表現学科】

(1) 学修成果の獲得に向けた学修ベンチマークルーブリックの活用

学修成果とベンチマークルーブリックについてオリエンテーションで説明し、学期ごとの自己評価に活用した。

(2) 授業アンケートを基にした講義内容の見直し

授業改善報告をするとともに、講義内容の検討や新型コロナウイルス感染症対策に伴うリモート授業等のシラバスの見直しを行った。

(3) 資格取得・検定試験に関して学生の計画力を強化し、取得率を向上させるためのチューター指導の充実

資格取得・検定試験について、1年次より関連授業、年間計画の指導を強化した。チューター指導の充実を図ったことで、取得率・合格率が向上した。芸術表現学科として、色彩検定協会の奨励賞を受賞した。

(4) 学修意欲を高めるためのコンペティションなどへの積極的な応募

外部からのデザイン公募に積極的に参加している。山口街づくりデザインコンペ「ロゴ部門」で最優秀賞、優秀賞を受賞した。山口県広告大賞へ応募し、グランプリ、準グランプリ（3名）を受賞した。また、地域での作品展示などにも参加した。

【専攻科】

(1) 2専攻を1専攻に変更することに伴う科目内容の検討

2専攻を「芸術表現専攻」の1専攻とし、科目内容の見直しとスリム化を行った。

Ⅲ キャリア支援の充実

1. 就職支援室・保育職支援室の各室と各学科との連携の強化

- ① 外部講師を招聘してマナー修得や就職活動支援のための講座を実施した。
- ② 学生全員に配付する就職ガイドブックを改訂し、学生の主体的な就職活動を促すとともに、授業でも活用した。また、新卒者就職先からの意見等を情報共有するとともに、アンケートの分析結果を授業改善や個別指導に反映させるべく協議し、各学科との連携を図った。

2. 学修成果の獲得状況を踏まえたキャリア支援の実施

- ① 学生の学修成果や取得資格に関する情報を入手し、それらを踏まえながら、キャリア支援を行った。
- ② 保育職専任アドバイザーと就職担当教員との連携を深めて、学生個々の特性を踏まえながら専門職に就くためのキャリア支援を行った。
- ③ 就職希望者112名のうち、95.5%にあたる107名の就職が決定した。なお、保育職と介護福祉士希望者においては100%希望する職種に就職した。

IV 学生の生活支援

1. 「高等教育の修学支援新制度」及び「大学独自の奨学金制度」への適切な取組み

「高等教育の修学支援新制度」の対象機関として文部科学省の認可を受け、令和2年度からの新体制を整備し、「給付型奨学金」「学びの継続のための学生支援緊急給付金」「新型コロナウイルス感染症対策助成事業」及び「本学独自の緊急学生支援給付型奨学金」により学生への経済的支援を行った。

2. 学生アンケートの実施と分析及び課題の検討

学生生活アンケートを実施し、学生の生活をより理解できるよう、現在の学生生活に則したアンケート項目の分析・検討を行い、充実した学生生活支援の向上を図った。

V 教育環境の充実と活用

1. 「宇部学園施設耐震化計画」に基づく整備の実施及び施設の有効活用

「旧学生寮解体Ⅱ期工事」を行い、後寮部分の解体を行った。本工事完了後、前寮・後寮の跡地を、学生・教職員駐車場として整備・活用することで構内の環境整備に加え、車両通行の安全性を確保した。

以上の施設整備を終えたことで、大学・短大部門の耐震化率は100%となり、「宇部学園施設耐震化計画」に則った整備計画を全て達成した。

2. ICTを活用した教育環境の整備による表現力・コミュニケーション力の強化

「令和2年度遠隔授業環境構築事業（文科省）」に基づいた学生用情報機器整備、インターネット回線接続速度向上（1Gbps）及び機器同時接続数確保に伴うファイアーウォール機能強化等のICT環境整備を完了し、ウェブ会議システムを導入した遠隔講義を行った。

VI 学生募集に関する取組み

1. 多様な人材を確保するために総合型選抜、学校推薦型選抜、一般選抜、共通テスト併用選抜及び社会人選抜の実施方法の検証と必要に応じた改善

入試改革に伴う対応として、計画に示した入試区分に応じた学生の受入数の検討と学力の3要素の多面的・総合的評価方法の検討を行い、アドミッション・ポリシーを踏まえた入学者選抜を実施した。

2. 令和3年度入学者選抜に係る基本方針及び大学入学共通テストの活用等における対応の公表

令和3年度入学者選抜に係る基本方針及び入学者選抜について検討を重ね、新しい選抜に関する情報を学生募集要項やホームページ等において公表した。

VII 地域連携の推進

1. 地域との連携協定を基にした地域貢献事業の取組み

山口市との包括連携協定を活用し、JR 新山口駅産業交流拠点事業を活用したアカデミーハウス入居者募集研修会、学内実施説明会（教職員向け）、入居説明会（学生向け）を行った。結果として、保育学科卒業予定の1名が採択され、今後のキャリア形成のための活動をスタートさせる予定である。

2. 大学の特色及び地域からのニーズを生かした公開講座・公開イベントの実施

①新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、これまで行ってきた大部分の公開講座や公開イベントはやむなく中止としたが、一部の講座は、人数制限や開講時間の短縮をするなどの工夫をして継続実施をした。

②本学の教育研究施設である「デザインスタジオ・みらい」の新企画として、「第1回デザインコンペ2020」を開催した。応募件数は、全国から104件（うち、県内15%）であり、本企画を通じてデザイン文化や芸術に寄せる関心度を高めるとともに、大学広報ツールのひとつとして県内外へアピールした。令和3年度以降も継続実施しながら本施設の維持・強化を目指すこととしている。

3. 他大学との連携による教育・研究への活用

県内の大学、高専、関係団体から構成される「大学リーグやまぐち」のすべての部会に担当者を派遣し連携体制を強めている。

VIII 情報発信の推進

1. ガバナンス・コードに基づく情報公開の推進

ガバナンス・コードに基づき、本学運営の透明性を確保するためにウェブサイトへ情報を公開した。

2. 広報誌及びウェブサイトの内容の充実及び最新情報の効果的な発信

大学案内の内容・デザインを再検討し、大学現場を実感できるよう写真を増やすなどして広報の充実に努め、さらに、ウェブサイトの情報発信の内容について検討し、公開する情報整理を行った。

また、法令上公表が定められているものに加えて自主的な情報公開を推進し、ステークホルダーへの情報提供に努めた。

3. 学科の魅力を発信するためのコンペティションなどへの積極的な応募

第88回毎日広告デザイン賞、第11回文書デザインコンテスト、山口県広告大賞などのデザインのコンペティションへ積極的に応募し、山口街づくりデザインコンペ「ロゴ部門」で最優秀賞、優秀賞を受賞した。新山口駅構内のギャラリーで広告大賞の受賞作品展を行った。